

十年の経験から言えることは、パントマイム芸術は生活の普段の観察に基礎をおくものであること、このフォームは他の芸術のフォームと区別できるものであることです。南米、イスラエル、北アフリカからヨーロッパまで、とくに最近のドイツ巡演など、これらの国々の大衆と堅く結びついたのは、時代が、日々平和と戦争が格闘しあい、人類が未来に不安をもっている時代だからで、私にとっては、現代におけるじぶんの芸術フォームを未来にむけて創造的にのばしていく刺激でしたね。芸術が高い水準に立っていられるのはどういう場合かといえば、その力が民族の深い根から出ている、芸術家をしてじぶんをこえた人間の喜びと教訓へ高める、そして遠くを照らし、どこの国へいってもみんなが興味をもったという反響をみいだす、そういった場合だけなのです。

**P.104-105 「パントマイム芸術」 1971年第1刷発行 てすぴす双書63 未来社**  
**(原書1956年 Herbert Jhering・Marcel Marceau**  
**"Die Weltkunst der Pantomime" Aufbau-Verlag Berlin)**

